

[成果情報名]施設栽培に適した夏秋小ギク品種の選定

[要約]夏秋小ギク「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」「秀もくば」の4品種は、施設条件下において6月7日、10日、13日の3つの消灯区における到花日数の変化が少ない。

[キーワード]施設栽培、小ギク、品種選定、高温開花性

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]花き

[分類]指導

[作成年度]2017年度

[背景・ねらい]

本県には全国的にも数少ない施設小ギクの産地がある。施設で栽培される小ギクは露地栽培に比べて草姿が良く秀品率も高いため、市場からの高い引き合いがある。しかしながら、施設内は露地に比べて気温が高いため花芽分化期以降の高温により開花遅延を起しやすく、スポット的な8月盆の最需要期に向けた計画出荷が難しい現状がある。

そこで、施設条件下においても到花日数の変動が少ない、高い高温開花性を有する品種を選定し、産地が安定的に計画出荷できる生産体制の構築を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 6月7日、10日、13日の3つの消灯区において到花日数の変化が2日以内の品種は、「精はぎの」、「精しずえ」、「精かのか」および「秀もくば」の4品種である(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 試験施設の日平均気温は、花芽分化期(6月中～7月上旬)が25.5℃、花芽発達期(7月中～下旬)は28.9℃であり、高温による開花遅延を起しやすいとされる日平均気温25℃をいずれも超えた。また、同時期の外気日平均気温はそれぞれ25.2℃と28.2℃で、平年より0.5～1.4℃高めに推移した(データ略)。
2. 発蕾時にあたる6月下旬において長崎地方の旬日照時間は平年より15.9時間少ない、12.7時間であった。この時期に一部の品種では葉先枯れ症の発生がみられた(表1)。

[耕種概要]

種苗：購入穂 「精ちぐさ」「精はんな」「精はぎの」「精しずえ」「精かのか」(イノチオ精興園株式会社)  
「しゅううきぐも」「秀もくば」「秀ちはや」(山手秀芳園)

挿し芽：4/18

定植：2017/5/2 センター内APハウス 施肥 N:P205:K=10:10:10kg/10a

摘心：5/9

整枝：5/26 主茎3本/株仕立て

電照：定植直後から各消灯日までは蛍光球(BIOTECHLIGHT 23W)にて5時間の暗期中断(23:00～4:00)

[具体的データ]

表 1 各処理区における平均収穫日および切り花品質

品種名 (花色)	消灯日 (月/日)	発蕾日 <sup>z</sup> (月/日)	収穫日 (月/日)	到花 日数 (日)	基準収穫期 間の採花率 <sup>y</sup> (%)	切り花 長 (cm)	切り花 重 (g)	節数 (節)	FF <sup>x</sup>	備考
精ちぐさ (赤)	6/7	6/20	7/26±0.6 <sup>w</sup>	49 a <sup>v</sup>	25	80.5	51.0	39.4	1.5	
	6/10	6/26	7/26±0.3	46 b	30	85.7	52.1	43.6	1.0	
	6/13	6/30	7/29±0.4	46 b	95	90.0	57.2	46.9	1.0	
精はんな (赤)	6/7	6/28	7/30±0.7	53 b	80	88.6	54.0	37.3	1.0	
	6/10	7/1	8/4±0.6	55 a	95	101.4	65.9	42.4	1.1	
	6/13	7/4	8/4±0.6	52 b	100	94.8	62.7	40.1	1.1	
精はぎの (黄)	6/7	6/28	8/1±0.6	55 b	100	94.7	65.1	42.1	1.0	
	6/10	6/30	8/5±0.4	56 ab	100	106.1	84.0	47.1	1.0	
	6/13	7/5	8/9±0.7	57 a	75	93.0	67.7	45.6	1.0	
精しずえ (白)	6/7	6/28	7/30±1.2	53 a	65	91.0	69.8	46.5	1.2	
	6/10	6/28	8/3±0.4	54 a	100	96.5	67.2	48.9	1.0	葉先枯れ
	6/13	7/3	8/7±0.6	55 a	90	95.5	61.7	49.4	1.2	
精かのか (白)	6/7	6/28	8/3±0.5	57 a	100	107.0	60.0	48.9	1.4	
	6/10	6/30	8/5±0.5	56 a	100	118.6	68.0	53.5	1.2	
	6/13	7/5	8/9±0.8	57 a	50	113.3	63.8	53.6	1.0	
しゅう うきぐも (白)	6/7	6/28	7/31±0.7	54 a	100	91.6	51.8	43.2	1.1	
	6/10	6/30	8/1±0.7	52 a	100	91.8	54.6	44.9	1.0	
	6/13	6/28	8/2±0.7	50 b	100	88.8	59.3	45.2	1.3	
秀もくば (黄)	6/7	6/28	7/25±0.0	48 a	0	101.7	49.6	52.1	1.8	
	6/10	6/28	7/28±0.4	48 a	75	100.0	63.0	54.3	1.9	
	6/13	6/28	8/1±0.4	49 a	100	101.9	60.3	57.1	1.4	
秀ちはや (黄)	6/7	6/28	8/2±0.5	56 b	100	102.8	59.1	42.0	1.5	
	6/10	6/28	8/9±0.9	60 a	60	103.9	64.1	42.9	1.3	葉先枯れ
	6/13	6/28	8/13±0.6	61 a	15	93.7	54.8	42.6	2.1	葉先枯れ

z) 肉眼による発蕾を調査対象株の過半数で確認した日

y) 基準収穫期間の採花率：7/27～8/10 に採花した割合

x) FF (フラワーフォーメーション)：図 1 により分類した花房型の平均値

w) 平均±S. E.

v) 同列英異文字間には Tukey-Kramer の多重検定により 5%の水準で有意差あり

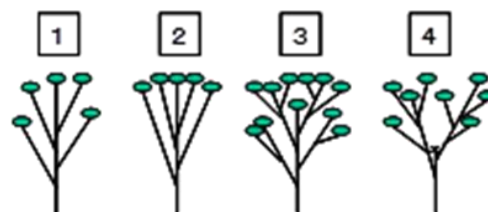


図 1：FF (フラワーフォーメーション)

[その他]

研究課題名：夏秋期特需対応システム導入による小ギクの国際競争力強化戦略

予算区分：国庫

研究期間：2016～2018 年度

研究担当者：池森恵子